

W杯で燃え尽きる!



第2号

「大道芸の季節」がやってきた。「大道芸ワールドカップ」は四組出場する。「フリー部門」に王輝、トリックマスタ「TAKASHI」。「オフ部門」にTOMI、ダブルチキン。この中で唯一、今回初参加になるダブルチキン。「あまると」「そぶき」の学生二人組である。彼らはこの大会に特別な思いを抱いて臨む。



真冬の大道芸は、エンターテインメントというより、格闘技である。酷寒の中、吹きさらしの路上で誰が何十分も立ち止まりたいと思うだろう。

そんな大道芸のオフシーズに、ダブルチキンの二人は時間が許す限り街頭でのパフォーマンスを繰り返した。何故、彼らは路上に立ち続

W杯オフ部門初出場!

ダブルチキン



けるのか。何が彼らを駆り立てているのだろうか。

あまるとが大道芸に出会ったのは、九九年の四月、彼が幼少より過ごした群馬県の高専を卒業し、静岡大学に編入してきたときにさかのぼる。

大学で入るサークルを探していたあまるとは、キャンパスで「大道芸サークルMAPS」のメンバー募集チラシを手にする。「お手玉を教わってみよう」と、ほんの軽い気持ちで入会した。

彼は大道芸をやるまで、強い意志で何かに主体的に取り組んだことはなかったという。

中学では「どこかに入らないといけないので」陸上部に所属。コンピュータの勉強をしようと高専を目指すも、試験で振り分けられ第二志望の生物コースへ。その頃もつぱらの趣味は本屋での立ち読みだった。静岡大に来たのは「入試の時期が早かった」から。「なんとなく」過ごしてきた学生時代。熱中したこと思い返して見ると、「小学校の『俳句』の授業時間に、川柳を詠んで笑いをとる」と「ぐらいいだという。

一方、そぶきは、小学生の頃から手品を独学するなど、人を驚かせることが好きだった。

高校では「アクロバットをやってみよう」と体操部に所属。学園祭では司会を務め、「みんなで盛り上がる」快感を知ったという。偶然ながら、大道芸につながる素養を、少しずつ蓄えてきたと言える。

二〇〇〇年十一月、ジャグリングを始めて一年半になったあまるとは、大道芸ワールドカップ・オフ部門に初めて参加した。

そのとき、同じくオフにエントリーしていた大阪の芸人・稲垣篤希のパフォーマンスを観て、衝撃を受ける。あまるとの抱いていた「大道芸」という観念を覆す、パイ投げなどのパフォーマンス。そしてそれ以上に強烈なキャラクター。瞬間、「この人に勝ちたい」と思った。

誰もやってないような新しい大道芸をやりたい。あまるとはワールドカップ後、

街なかで「相方募集」の看板を掲げて毎週末大道芸をやるようになった。

◆二人のチキンの出会い

十一月のある日、東海大に進学し清水市に移り住んでいたそぶきは、青葉通りで「ヘンな人」を見つけた。

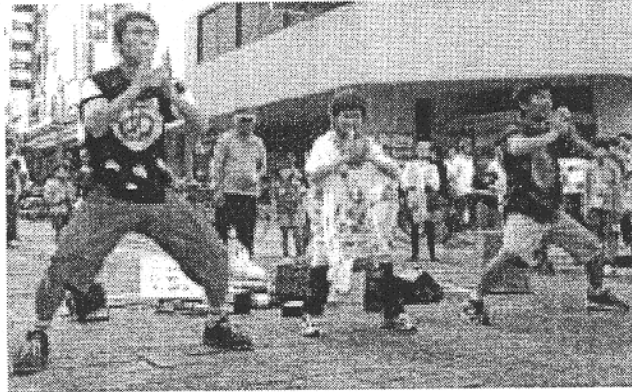
さほど人通りもないところで、道行く人を呼び止めてはパフォーマンスし、逃げられている。その人の「相方募集」には興味はなかったが、ジャグリングに強く惹かれた。それから間もなく、そぶきは大道芸サークルでジャグリングを学び始める。

あまるとそぶきが初めてコンビを組んだのは、二人の出会いからほぼ一ヶ月後、大道芸サークルのメンバーによる恒例イベント・クリスマス大道芸の場だった。

まだ相方が見つからないあまるとは、本番前日、ごく初歩のお手玉しか出来ないそぶきに声をかけた。

そこで付け焼き刃的に生まれたのが、音楽に合わせての「ヘンな踊り」である。最後には観客をも巻き込んで踊ら

せるこのパフォーマンス、思った以上にウケが良かった。以後、これがこのコンビのオリジナリティーという武器となる。



「ダブルチキン」。「二人の腰ぬけ」を意味するこのコンビ名は、本番直前、必要に迫られて慌ただしく付けられた。だが、どちらが言い出したのか、二人の記憶は食い違い、お互い自分が言ったような気がすると。それほど違和感なくしつくりきた名前だったのだろう。自らを「本当に臆病者」と称するあまると人前に出るのには「かなり緊張

するタイプ」というそぶき。

「目標は大道芸ワールドカップ」

ダブルチキンとして活動を始めた当初から、あまるとそぶきにそう言っていた。

毎年静岡で開催されながら、大道芸サークルからはまだ誰の審査が厳しい、ジャパンカップ部門やフリー部門)には出していない。

「最初に(本選に)出てやろう」。大学の勉強の合間を縫って、寸暇を惜しんで練習を重ねた。時間の許す限り、街なかでの大道芸を繰り返した。コンビを組んだばかりの頃は冬だったため、大道芸をやっても簡単には人の足が止まらない。しかし、そんな厳しい中でやるのがかえって良い修行となった。二人はめきめき腕を上げていった。

今年五月、コンビ結成から

五ヶ月弱、ダブルチキンは「第三回鈴鹿サーキット・パフォーマー・ミーティング」

(大道芸コンテスト)でグラプリを獲得する。アマチュア・パフォーマーが多数を占める大会とは言え、四十二組

の中でトップをとるといのは至難の業である。彼らはそこで気を緩めることなく、それどころか、知り合った多くのパフォーマーに刺激され、練習量が増えたという。その向上心には目を見張るものがある。

「もつといろんなジャンルの人に路上に出てきてほしい」と二人は声を揃える。

もつと刺激を受け、もつと学び、もつとパフォーマンスを高めたい。

彼らはがむしやらに、行き場のわからない「高み」を目指しているように見える。その道しるべとして「大道芸ワールドカップ」を目標に置いたのかもしれない。

◆「活動休止」

今年六月、大道芸ワールドカップの出演者を決めるビデオ選考が行われた。

結局ダブルチキンは、本選出場ならず、オフ部門で出場することになった。

大会では「ダブルチキンの集大成を見せたい」と意気込む。

実は二人、十一月四日最終

日をもって、コンビとしてはしばらく「活動休止」することを決めている。

理由は「それぞれやりたい方向が違って来た」から。多くに受け入れられなくても「新しいパフォーマンスをやりたい」あまると。できるだけ確実に「盛り上がるパフォーマンスをやりたい」そぶき。大会後はそれぞれソロの活動に入る。

コンビとしての活動はおよそ一年間、決して長くはなかったが、彼らは常に、目まぐるしく変わり続け、成長し続けてきた。

初めは路上に立つことがかなり怖かったという二人。今や「大道芸をやるのが普通の生活」になっている。

「二人の腰ぬけ」は、今とつさに付けるなら、どんなコンビ名になるのだろうか。

(文中敬称略)

文【ひと】

写真【欲望】

ダブルチキン ホームページ
<http://www.geocities.co.jp/Hearthland-Apricot/3008/>

大道芸 ふれあい日記

第1話

小さな手の話

大道芸を始めてやっと半年経ちました。まだまだ未熟です。
大道芸をしていてよかつたなあと思うのは、いつだってお客さんの笑顔をたくさん見られた時です。いくつものそんな出会いが、今日まで私を支えてくれたと思っています。

あれはまだデビューして一ヶ月くらいの時。
芸を終えた後に、お母さんに手を引かれた二、三歳くらいの小さな男の子がここにこして歩いてきました。思わず私も笑顔になり、しやがんで話し掛けました。
「暑いのに見てくれたんだね。ありがとう。」
そう言つて頭を撫でると、彼は身体中で喜んでくれたのです。
「もう終わったよって言つても、帰りたいがらないんですよ。」
お母さんが困つたように笑つて言いました。

よくバルーンが欲しくて、芸の後に待つていてくれるお客さんはいませんが、どうもそうではないらしい…。私も彼の笑顔に癒えたくて、何かしてあげたいと思ひました。見てくれたお礼をしたいと思つたのです。
座ったまま手を差し出して握手しようと言うと、飛び跳ねながら私の手を握りにきてくれました。小さいけど、温かくて、力強い手
* * *
でした。なんだかもう、彼が可愛くつてたまらなくなつて、お母さんに聞きました。
「だっこしても、嫌がりませんかね？」
「ええ。大丈夫です。」
次の瞬間、私は彼の両脇に手を入れて、高々と持ち上げました。彼は声を立てて、すごく楽しそうに笑つてくれていきます。今度は彼の身体をしつかりと抱きかかえて、足だけぶらぶらさせた状態で自分がぐるぐる回つて見せました。右に、左に…。
「ほおら。メリーゴーランドだよ!!」
(注：小さなお子様の扱いに慣れない方は真似をしないで下さい)彼は「きゃー!」と歓喜の声を上げ、心の底からの笑い声を存分に私に聞かせてくれました。最後にきゅつと抱きしめて、もう一度お礼を言いました。「見てくれて、ありがとう」すると今度は彼の小さな手が、私の頭を撫でてくれたのです!その時の嬉しさと言つたら…言い表しようがありません!まさに天にも昇る気持ちでした。(笑)



再びお母さんに手を引かれて、ゆるやかな坂を上つて帰つていく彼。
「ばいばい!!」
とあの小さな手を何度も強く振つて、何度も何度も振り返つて行きました。本当に姿が見えなくなるまで、ずつと振り返つては手を振つて…。
私もその親子が完全に見えなくなるまで手を振り続けました。なんだか胸が熱くなるような出来事でした。あの小さな手に、その日の夕方まで頑張つて芸をする元気を貰いました。そしてあの後姿は、一生忘れられない光景として、心に残りました。

芸をして喜んで貰うのはもちろんですが、こうしてふれあつて喜んで貰う事も大切にしていこう…と決めた瞬間でした。すべてはお客さんに楽しんで貰う為に。
こういう素敵な出会いが、いくつもあるからこそ、めげずにまた路上に立てるのだと思います。そもそも大道芸をしていなければ、決して味わう事の出来ない出会いですからね…。

いつかあなたとも、この道の上でお会いしましょう。

絵と文 【にゃんこ】

にゃんこプロフィール
芸 名：にゃんこ
芸 歴：半年（デビューは4月1日）
活動場所：休日の静岡や沼津の駅前。
得 技：こどもに風船をあげる。
将来の夢：みんなを笑顔にできるような芸人に!
ホームページ <http://www.geocities.co.jp/Bookend-Hemingway/1105/>
みんな遊びに来てね!お待ちしております!

* 大道芸のんふお *

□ 11/17~18
第2回ストリート
フェスティバル in 静岡

□ 11/1~4
大道芸ワールドカップ
in 静岡 2001

静岡市駿府公園及び市内各所その名の通り大道芸のワールドカップです。今年には十周年という事でスペシャルです。歴代チャンピオンが帰ってきたり、夜だけのスペクタクルショーが繰り広げられたり。早々と十月から、ハプニング等のイベントもありました。パフォーマー、スケジューラー等詳細は書店で販売している公式ガイドブックをご覧ください。
公式ホームページ
<http://www.daidoge.com/>

□ アクトシティ浜松
11/4(日)
ステイブ・マーシエル
(マジックジャグラー)
アクトタワー2階
午後1時~午後2時30分

青葉イベント広場・青葉シンボルロード・七間町通り

昨年、音楽とアートの融合を目指したという「ストリートフェスティバル in 静岡」。今年も時間、場所を更に拡大してパワーアップしました!

ラプトルズ、Misato&Shin等、お馴染みストリートミュージシャンも出演。

17日(土)
午前11時~午後8時
18日(日)
午前11時~午後6時

〈問い合わせ〉

(財)静岡市文化振興財団内
ストリートフェスティバル
イン・シズオカ実行委員会

TEL 054 (255) 4746
FAX 054 (653) 3501

♪ ストリート

ミュージック

☆ 足踏

毎週金曜日、夜

青葉公園 etc.

<http://www8.big.or.jp/~tak-web/ashburni/>

☆ ラプトルズ

毎週土曜日、午後4時~

青葉公園

<http://isweb9.infoseek.co.jp/art/aplors/>

☆ グリゲラ

毎週土曜日、午後8時~

時。静岡駅前地下道

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/8223/>

☆ Misato&Shin

毎週日曜日、午後2時~

4時。青葉公園

(11/4、11/18はお休み)
<http://village.infoweb.ne.jp/~gonpage/>

パフォーマー募集!

当会では、青葉通り(静岡市役所前)でパフォーマーを披露してくれるパフォーマーを随時募集しています。プロ・アマ、ジャンルは問いません。お問い合わせ等、お気軽にどうぞ!

お申込み・お問い合わせ

→511

E-mail: hikoz@tokai.or.jp

TEL/FAX: 054-281-9776

サポーター(会員)募集!

当会は、静岡の街中で日常的に大道芸を楽しめるまちづくりを目指しています。会の活動を応援してくれるサポーターを大募集中です! サポーターのみなさんには会報「しずおか大道芸しんぶん」をお届けします。年会費は、一口五百円(年度単位)で、お一人様何口でも!

お申込み・お問い合わせ

→テグチ

E-mail: miyu2791@hotmail.com

TEL/FAX: 054-643-8892

◆ 編集後記 ◆

祝・W杯前完成! 編集委員会に強力な助入、現る。タイトルのラッキー犬も健在。次号はいかに?

【さりだ】

こんな原稿で良ければ、またお願いします。連載なので、これからもよろしく!

【じゃんこ】

二ヶ月を空けずに第二号出ましたが、くれぐれも年度四回発行です。くれぐれも。

【ひん】

やっぱりデジタルとアナログ、両方いい面がありますね。まだまだ課題がたくさんありますが日々精進ということで。

【さくがわ】

しずおか大道芸しんぶん

第二号

二〇〇一年十月三十一日発行
発行部数三〇〇部

編集・発行

しずおか大道芸のまちをつくる
つくる会編集委員

会

(代表) 伏見典晃

〒421-0133
静岡市鎌田318-2-203

電話(054)257-5011

<http://members.tripod.co.jp/daidoge/machizukuri/>
aidoge_machizukuri@daidoge_machizukuri



© KEITA

【泉】